

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰
 アドミニストレイティブディレクター 渡部 中子
 コンサートマスター 藤田 めぐみ
 インспекター 金岡 秀典、山川 奈緒子
 ライブラリアン 上村 雅英
 事務局 渡辺 晶子、鈴木 光子、青木 勝弘、館岡 由実

Violins

- 藤田 めぐみ
- 上原 まさみ
- 荒巻 泉
- 犬飼 素子
- 大津 千代子
- 岡田 邦子
- 小澤 薫
- 栗原 りか
- 坂井 みどり
- 綱木 郁
- 徳井 えま
- 富山 ゆりえ
- 中川 さと子
- 中澤 真理子
- 樋口 美佐子
- 宮林 陽子
- 室井 美子
- 山江 洋子
- 山川 奈緒子

Violas

- 山本 佳子
- 吉井 孝子
- 桜井 多美子
- 安達 いづみ
- 久郷 寿実子
- 高瀬 有美
- 平沢 純
- 堀江 冬子
- 真家 利恵
- 齋藤 章一
- 青嶋 直樹
- 葛西 英一
- 加藤 浩樹
- 鈴木 和生
- 富成 倫子
- 橋本 しのぶ
- 松 稜

Doublebasses

- 徳高 宏行
- 青山 幸成
- 江上 靖
- 中村 勇一
- 若林 昭
- 井ノ上 洋
- 内山 豊美
- 名越 篤
- 徳田 振作
- 井上 恵子
- 西尾 郁子
- 松元 香
- 藤田 旬
- 齋藤 美和子

Flutes

- 井ノ上 洋
- 内山 豊美
- 名越 篤
- 徳田 振作
- 井上 恵子
- 西尾 郁子
- 松元 香
- 藤田 旬
- 齋藤 美和子

Clarinets

- 西尾 郁子
- 松元 香
- 藤田 旬
- 齋藤 美和子

Bassoons

- 藤田 旬
- 齋藤 美和子

Horns

- 小川 正毅
- 加藤 千草
- 松浦 光男
- 広川 実
- 上村 雅英
- 中西 清一
- 染谷 始
- 井口 有里
- 福井 実織
- 沼田 司
- 松下 見一
- 藤城 佳之
- 青木 勝弘

Trumpets

- 中西 清一
- 染谷 始
- 井口 有里
- 福井 実織
- 沼田 司
- 松下 見一
- 藤城 佳之
- 青木 勝弘

Trombones

- 井口 有里
- 福井 実織
- 沼田 司
- 松下 見一
- 藤城 佳之
- 青木 勝弘

Bass Trombone

- 沼田 司
- 松下 見一
- 藤城 佳之
- 青木 勝弘

Tuba

- 松下 見一
- 藤城 佳之
- 青木 勝弘

Timpani

- 藤城 佳之
- 青木 勝弘

Stage manager

- 青木 勝弘

東京ニューシティ管弦楽団

第19回定期演奏会

東京ニューシティ管弦楽団 2001年度定期演奏会

音楽監督・常任指揮者: 内藤 彰

▶ 第20回定期演奏会 — ヴェルディ没後100年記念

2001年4月30日(月・祝) 2:00pm 東京芸術劇場 大ホール
 テノール: カルロ・ベルゴンツィ 他 ヴェルディ オペラ曲のハイライト

▶ 第21回定期演奏会 (東京合唱協会第18回定期演奏会)

2001年7月予定
 指揮: 内藤彰 合唱: 東京合唱協会

▶ 第22回定期演奏会

2001年8月25日(火) 7:00pm 東京芸術劇場 大ホール
 指揮: 内藤彰 メゾ・ソプラノ: アグネス・バルツァ

▶ 第23回定期演奏会

2001年11月21日(水) 7:00pm 東京芸術劇場 大ホール
 指揮: 内藤彰 ピアノ: 稲田潤子(98年ロシア<モスクワ>ラフマニノフ国際音楽コンクール 第3位)
 ラフマニノフ「ヴォカリーズ」作品34-14
 ラフマニノフ ピアノ協奏曲第3番 二短調 作品30
 シューマン 交響曲第3番 変ホ長調「ライン」作品67

※やむを得ぬ事情により、出演者、曲目が変更になる場合がございます。何卒ご了承ください。

東京ニューシティ管弦楽団事務局

ホームページ <http://www2.plala.or.jp/newcity/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-31-13 ライオンズマンション東池袋第3-805 TEL:03-5952-7617 FAX:03-5952-7618

■(株)東京アイエムシー

〒107-0004 東京都港区南青山1-26-13 乃木坂ナショナルコート406 TEL:03-3401-9561 FAX:03-3479-6209



音楽界のサポーター

より良いコンサートのために……。

アイ・エム・エス ● 楽器リース ● 保管 ● 移動 ● ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル1F PHONE.03-3397-2292 FAX.03-3397-7728
 URL <http://www.jade.dti.ne.jp/~ims> E-mail ims@jade.dti.ne.jp

2000年10月27日(金)

午後7時開演

東京オペラシティ・コンサートホール

■主催 東京ニューシティ管弦楽団

(株)東京アイエムシー

〈本日のロビーコンサート〉

フェレンツ・ファルカシュ(1905~72)

17世紀の古代舞曲集

今夜のプログラムをめぐって

奥田 佳道

T O K Y O N E

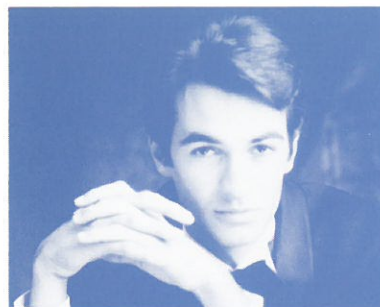
ブラームス(1833~1897)
悲劇的序曲作品81

重厚かつ渋味のある響きで10月定期の幕が上がります。同じ年に書かれた大学祝典序曲とともに、ブラームス円熟時の管弦楽曲として多くの演奏家、ファンを魅了し続けている"規模の大きな序曲"で、堅牢とも呼ぶべき構成(ソナタ形式)はまさに比類がありません。ゲーテのファウストと何らかの関連をもつのではないかと見る向きもありますが、特定のドラマやプログラムに沿った序曲ではないようです。

作曲は1880年の夏、ブラームスお気に入りの温泉保養地バートイシュル。ザルツカンマーグートの中心に位置するバートイシュルは、フランツ・ヨーゼフ皇帝らハプスブルク家の夏の逗留地で、多くの芸術家に愛された街です。

悲劇的序曲の作曲年を交響曲の歩みに照らし合わせて見ますと、第2番ニ長調(1877年)と第3番ヘ長調(1883年)の間ということになります。これらの交響曲と悲劇的序曲はいずれもウィーン楽友協会でハンス・リヒター(1843~1916)指揮のウィーン・フィルによって初演されました(悲劇的序曲の初演は1880年12月26日)。

曲はクララ・シューマンに捧げられ、彼女の誕生日にピアノ連弾で試験的に演奏されたという記録も残されています。



フィリップ・ジュジアーノ(ピアノ) Philippe Giusiano

1973年フランスのマルセイユに生まれ、5歳でピアノを始める。マルセイユ国立音楽院でオディル・ポアソン、ピエール・バルビゼ教授に師事。12歳でマルセイユ市の金メダルを与えられる。パリ国立音楽院では、ジャック・ルヴィエのもと5年間研鑽し、16歳で満票の第1位を獲得。1993年には奨学金を得、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽院でカール・ハインツ・ケマリング教授に師事する。1994年からは、オランダのアムステルダム音楽院でイアン・ヴィーイン教授のクラスで学んでいる。1989年から1993年まで毎年マスタークラス/コンサート主催企画「オランダ音楽セッション」に参加し、ヤン・エキエル、アダム・ヴィプロフスキ、ジョン・ペリーなどの大家ピアニストの助言を受け、アムステルダム・コンセルトヘボウで数多く演奏する。1993年3月にニューヨークのカーネギーホールや東京のカザルスホールなどで演奏し、世界コンサートツアーを行う。

彼の主なピアノ・コンクール歴は、1986年ベンミラボー・リスト・ピアノコンクール入賞、1987年ダリウス・ミヨー音楽コンクール入賞、1990年ロアール・フィルハーモニー管弦楽団ピアノ・コンクール第1位、第12回ショパン国際ピアノ・コンクールに17歳で最年少入賞者となり、ポーランドの聴衆を魅了しマスコミの注目を浴び、1995年再びこのコンクールに参加し、最高位(1位なしの2位)を与えられトップレベルのピアニストの仲間入りを果たす。1994年には、ソフィア・アンティポリス財団の常任ソリストとして指名された。その後、多数の音楽祭に参加し、ドイツ、オーストリア、日本、ルーマニア、モロッコ、ポーランドでコンサートを実現し、ポーランドでは国立テレビ放送局のためにレコーディングを行った。以後、ポーランド国立放送交響楽団やワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団とともに毎年来日し、日本全国でピアノ・コンチェルトやリサイタルを行い、とりわけショパンに対してはその緻密な解釈に加え、繊細かつ華麗かつ優雅な演奏で絶賛を博している。



東京ニューシティ管弦楽団 Tokyo New City Orchestra

東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・ブライ、カーティア・リッチャレリ、マリエッタ・デビーア、マリア・キアラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、絶賛の言葉を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ており、今後も内外のバレエ団の公演がめじろ押しである。

また、桂三枝、三枝成彰、ケント・ギルバート、マリ・クリスティーン等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の實力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高い評価を得ている。また、メンバーによる室内楽の活動も大変盛んで、特に、ニューシティウィンドアンサンブルは福祉施設や医療施設での訪問演奏を行うなど、ボランティア活動にも積極的に取り組んでおり、こうした幅の広い活動が各界より好評をもって迎えられている。一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、近年その活動が各方面から注目されている。

2000年度より定期演奏会を年間5回に増やし、東京第10番目のオーケストラとして今後の活躍が益々期待されている。



内藤 彰(指揮) Akira Naito

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大な信頼を得ている。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年5月には、ロシアの国立ヴァローニシュ歌劇場にて、「セビリアの理髪師」を指揮し、絶大な賞讃を受けた。1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて「蝶々夫人」を指揮し、その成功により、今後も同歌劇場から定期的な客演が要請されている。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、常任指揮者。日本指揮者協会幹事。